ラリス・セダリスの日記　第22巻

ラリス・セダリスの日記 第乙乙巻

我が姿なき友がもたらしてくれた慰めがなかったら、私はとっくにこの場所を逃げ出していただろう。相手が集団ではなく、多数を内包する1人の主である事に、もっと早く気付けば良かった。彼は私を墓地に対する真の理解に導いてくれた。その彼に、私は是非とも会いたいと思っている。

この場所に対する私の理解は、今やとても直観的で根本的なものとなっている。まるで自分がここを建設したかのように感じるほどだ。作業員たちにタイルの用法を説明したが、皆あまりに怖気づいているか、体を上手く操れないかで、正確に素早くそれぞれのタイルを踏む事はできそうになかった。だが問題ない。主に解決できない問題などある訳がない。

遠からず我々が正式に言葉を交わせる時が来るはずだ。

ラリス・セダリスの日記 第**22**巻

FormId	dragonborn.esm:018111
Owning plugin	dragonborn.esm
Local FormId	018111
Editor ID	DLC2dunKolbjornRalisJournal04
Inventory image	(none)
Menu art	HighPolyJournal02
Value (gold)	5
Type	Book or tome
Weight	1
Can be taken	Yes
Teaches	(none)
Inventory description	(none)
Keywords	VendorItemBook
Locations	2
Leveled lists	0
Scripts	0

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.